



子どものサインが見えますか？ ～子どもに安心を感じてもらえる大人になるために～

地域の教育力向上研修は、子育て、親育ち、親子の絆、あるいは子育て支援のあり方等について考え合う学習を進め、子どもや若者、家庭を支援するために地域の大人としてできることを考えます。

この講座では、様々な要因により苦戦する子どもたちの理解を深め、子どもにSOSを出してもらえる大人になるために出来ることを、参加者のみなさんと一緒に考えました。

子どものSOSサインやストレス反応の具体的な様子、そしてそれらが起こる背景について茅野先生にお話しいただき、そのお話を根拠にしてグループワークにより「ほめ方」の具体、「支援者自身の感情」について考える中で、「自分が思っている以上にサインは色んなところに隠れている」や「(自尊感情のタイプにより)ほめ方の使い分けが有効」「自分はどうしても解決への道筋を考えてしまう」など、気づきが多く、現場で活かせることがたくさんある講座となりました。(受講者 42名)

〈研修内容〉

- 研修Ⅰ 演題「子どものサインが見えますか？
～子どもに安心を感じてもらえる大人になるために～」
グループワーク「支援者自身の感情について考えてみよう」
 - 研修Ⅱ 演題「子どもとのかかわりをブラッシュアップしてみよう」
グループワーク「安心を実感できるほめ方を考えよう」
- 講師 信州大学 学術研究院教育学系 准教授 茅野 理恵 氏



受講者アンケートから

- 自分の感情を自覚するということを改めて体験してみて、日頃、自分がどんなことに視点をおいているのかということに気付いた。保護者対応が関係するとどうしても解決への道筋を考えてしまうが、情動焦点型でのかかわりをした方がよかったのではと思った。(学校教職員)
- 具体的な現場のお話、かなり驚くものがあり(いつでも死ねる岩、絶滅ごっこの話など)自分が思っている以上にサインは色んな所に隠れているんだなと思った。(一般)
- 「困った人は困っている人」という言葉をよく耳にするが、様々なストレスが表に出ている状態なのだなと感じた。(社会福祉協議会)
- タイプにより、ほめ方を考えて使い分けも有効な場合もあるかなと思った。子どもを安心させることをもう一度考えてみたい。(市町村職員)
- 基本的自尊感情が高まるように子どもの姿を褒めているつもりが、何かと比較して社会的自尊感情を高めるような声かけをしてしまっているということに気付いた。(学校教職員)
- 基本的自尊感情のほめ言葉、難しい。「しっかりやっている」「頑張った」は基本的自尊心感情だと思っていたが、掘り下げると「頑張っていたからえらい」となってしまいかねない。(社会福祉協議会)